

日本友和会戦争責任告白

日本友和会は、国際友和会の一部として一九二六年に誕生しました。国際友和会は、一九一四年、第一次世界大戦の勃発に伴う残酷な殺人・破壊を憂えた二人のキリスト者青年が祈りの中から、一切の暴力行使、戦争及び戦争の準備に絶対反対の旗印を掲げて発足した非戦平和団体です。この平和運動を熱心に紹介した欧米の宣教師らと合同で日本友和会はスタートしました。明治維新以来、わが国政府は欧米列強諸国に追いつき追い越そうとして、神格化した天皇を中心に富国強兵を推進し、朝鮮半島の植民地化や中国侵略を強行して来ました。日本友和会に参加した会員の多くは、当時の国際社会におけるキリスト者として平和にとりくむ自覚が十分に育っておらず、戦前・戦中にわたって数々の過ちを犯しました。

第一に、日本が中国・朝鮮半島で行なった侵略と非人道的行為（例えば、朝鮮半島において国土・生命・母国語・姓名・性の尊厳などの略奪と侵害をした）に対し、日本友和会はこれを傍観し批判しませんでした。一九三七年に起こした非人道的な南京大虐殺事件の情報が米国友和会のM・レスター女史によって提供されたにもかかわらず、日本友和会は官憲の弾圧を恐れ、これを公表しませんでした。

第二に、一九四三年、日本友和会幹部は、信仰に基づき良心的兵役拒否を表明した青年会員（インガオサム氏）と共に抵抗することをせず、逆に国の立場に立つて従うように説得し、彼に友和会に対する決定的な失望を与えてしまいました。第三に、一九四三年十一月二十日、日本友和会幹部は会に対する官憲からの圧力に抗しきれず、総会を開いて会員の意向を聞くこともせず、軍国主義を称揚し迎合する内容の「友和会解散通知書」を一方的に発信し、自ら解散を決定してしまいました。

このように、国家と軍の厳しい弾圧に屈し、日本友和会は戦前・戦中を通じて非戦平和団体としての使命を果たすことなく、結果として一九三一年の柳条湖事件発生から一九四五年のポツダム宣言受諾・降伏まで、大日本帝国が五十年間にわたって行なった侵略戦争に加担してしまいました。また、朝鮮半島を三六十年間にわたって植民地支配し上記のような暴虐を重ねました。

私たちは自らをあつめた時代の中に置いてみて、あの苛烈な弾圧に抗して「非戦・平和」の信念を貫き通し得たかと問われると言葉を失います。先輩たちの行為を正当化することは決して許されませんが、官憲の苛烈な弾圧の中にあつて大勢に従ってしまった先輩のみに、その責任を負わせることは許されたいでしょう。敗戦後 七〇年、新たな戦争へ向かう危機に際し、現在に生きる日本友和会会員は、先輩たちの犯した過ちを二度と繰り返さないようその罪と責任を共に担います。

同時に加害国としての日本は、いまだ近隣諸国への戦争犯罪を懺悔し、各被害者への謝罪と賠償を果たしていません。日本友和会はここに改めて心からの謝罪と戦争責任を告白します。

この責任を全うするため、日本政府へ働きかけを続けます。日本政府は、一五年戦争の犠牲者、国内外二千三百余万名および世界諸国へ非戦を誓った日本国憲法9条の精神をないがしろにして「集団的自衛権」の行使へと暴走しています。日本友和会は日米軍事同盟強化による「抑止力」でなく、民間レベルでの対話と信頼回復による「非戦・和解」の実現のために責任を果たしていく事を誓います。これが私たちにできる過去の過ちを償う道であると信じます。

二〇一五年八月一日（敗戦七〇年の日） 日本友和会（国際友和会日本支部） Japan Fellowship of Reconciliation

日本友和会平和責任宣言

今年、我が国は戦後 70 年目の節目を迎えます。しかし、この節目の年にわが国はいま急速に戦争のできる国に傾斜しつつあります。このような流れに抗し、「戦争責任告白」に基づき、私達は平和への責任を以下に宣言致します。

- (1) キリストの愛に示される和解と赦しの精神に基づき、武力でなく非暴力による和解と平和の実現を目指し、良心の自由、個人の自由を守り、社会正義を抑圧する力に屈しない基本姿勢を堅持し行動します。
- (2) この世の権力者が推し進める軍国主義、金権支配、人権侵害、自然破壊などに非暴力で抵抗し、「平和的生存権」「人格権」の確立に向け尽力します。
- (3) 以上の行動規範に基づき次の項目を実践します。
 1. 日本国憲法前文の精神と九条の非武装平和・非戦を守りぬきます。
 2. 思想・宗教・良心の自由の確立をめざし、天皇制を国民支配の道具として再び利用しようとすることに反対します。
 3. 金権支配による貧困や格差をなくし全ての人々の生命と安全が守られる社会を目指します。
 4. 軍事的、経済的理由による自然破壊に反対します。
 5. 国際友和会の一部として、国内外の紛争の和解と平和を創り出す活動に参加します。

2015年8月15日

日本友和会（国際友和会日本支部）

Japan Fellowship of Reconciliation (Japan Branch of International Fellowship of Reconciliation)